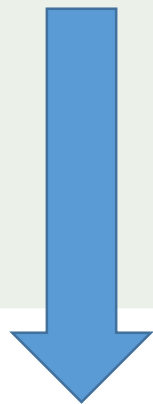


■目次■

- （１） 第１回評価委員会でのご意見等
- （２） R３大項目・全体評価への反映について
- （３） R４評価への反映について

(1) 第1回評価委員会でのご意見等

	全体を通して	各小項目評価案について
評価 できる 点	✓ 人員増により、飼育面などで組織的な取組ができている。 ✓ 職員の若返りにより組織として活性化できている。	✓ ハズバンやエンリッチへの取組は、評価できるものである。 ✓ クラウドファンディングの取組は、本当に頑張った結果であると思う。
今後の 課題	✓ 契約制度上の独法化のメリットが発現するのは今後になるので、引き続き注視が必要。 ✓ いかにインセンティブが働く制度設計にするか。 ✓ 職員がやりがいを持って取り組める仕組みづくりが重要。 ✓ <u>課題がありながら、小項目の評価では顕在化していないので、それを全体の評価にどう反映するかが重要。</u>	✓ 広報への取組みは、アクセス数等ではなく、いかに発信したかを重視すべき。 ✓ 加点評価する場合、ⅣかⅤかの考え方が必要。 ✓ 入園者数について、目標値がコロナを加味したものであれば、それを基準に考えるべき。 ✓ 中には評価できない、という項目があってもいい。 ✓ 評価するにあたり、提示した評価事例に縛られ過ぎている。 ✓ 市と法人で評価軸にずれがあり、今後はすり合わせるこ ✓ <u>評価基準そのものについてPDCAサイクルを回していくことが重要。</u>



R3 大項目・全体評価へ反映



R4 評価へ反映

(2) R3大項目・全体評価への反映について

	大項目評価	全体評価
基本的な考え方 (R3評価委員会)	✓ 小項目について、概ねⅢの評価であれば、大項目はB評価を基本とする。 ✓ 大項目について、B以外の評価を行う場合は、小項目の評価でⅣ以上の高評価・Ⅱ以下の低評価となっている項目について、中期目標に占めるウエイト等を考慮し、総合的に判断し、その理由を示す。	✓ 各項目の評価を踏まえ、記述式で評価。 ✓ 年度計画の項目にはないが、中期目標の達成に資するものがあれば、ここで評価を行う。
前回評価委員会 でのご意見	<u>小項目では顕在化しない課題をいかに大項目・全体評価に反映していくかの視点が必要</u>	
以上を踏まえた 評価手法	✓ 基本的な考え方は維持。 ✓ 小項目評価の積上げを主として評価するのではなく、<u>中期目標の達成度など、より俯瞰的な視点</u>での評価を行う。	✓ 基本的な考え方のとおり。 ✓ 評価時には課題も記載する。

【資料2】大項目・全体評価シート参照

(3) R4 評価への反映について

R3 評価項目	ご指摘内容	R4 評価への対応（案）
【10】メディアへの情報提供	どれだけ発信したかを指標とすべき	- 報道発表件数 - SNSでの発信件数 などを指標とする
【12】ホスピタリティマインドの醸成	本来の目的は研修を行うことではなく、来園者満足度の向上であり、そこを見失うことのないように。	（アンケート結果などの活用による）来園者満足度の向上 などを指標とする
【27】エンリッチ・ハズバンの取組み 【28】上記にかかる研修	V 評価に値しないかの検討が必要	対外的に説明できる理由を整理の上、評価委員会に諮る
【36】ニホンイシガメの保全	クラウドファンディングは直接的には保全に結びつかない	クラファンは手段のため、評価指標を「保全（繁殖）につながる環境整備」などに修正
【44】専門人材の登用	登用の効果を検証すべき	登用後の効果についても評価指標に反映
【55】入園者数	- 予算時点でコロナ影響を加味しているなら、それをベースに評価すべき - 後付けの理屈にならないように	上半期終了時点で、コロナ状況を踏まえ新たな指標を設定する
【56】ファンクラブ	会費収入よりも応援団を増やすことが重要	会費収入だけではなく、会員数も指標とする。
全体を通して	評価事例に拘束され過ぎている	あくまでも事例であることをシートに明記

今後、法人と会話し、具体的な評価事例を作成する。